

「LEGEND Travel Award Program」学会レポート

大阪大学大学院薬学研究科 ワクチン免疫制御学プロジェクト
博士後期課程3年 伊藤 沙耶美
参加学会：第48回日本免疫学会学術集会

この度は、BioLegend/Tomy Digital Biology 「LEGEND Travel Award Program」にお選びいただき誠にありがとうございます。私は本アワードプログラムを利用し、2019年12月11日から3日間、静岡県浜松市で開催された第48回日本免疫学会学術集会に参加してまいりました。今回は私が拝聴したセミナーおよびシンポジウムの中から印象的だった演題に関して分野に関してレポート致します。

大阪大学石井優先生のグループは、関節リウマチ発症には正常な破骨細胞とは起源や特性の異なる別の破骨細胞が存在することを明らかとした。さらに骨を病的に破壊する破骨細胞の前駆体として、マクロファージ (AtoM)の存在を突き止めた。この AtoM の破骨細胞分化は、Foxo1 と呼ばれる転写因子を阻害することにより抑制できることを In vivo イメージングシステムを利用して証明した。関節リウマチの発症機構を解明により、病的な破骨細胞を標的とした新たな治療薬の開発が大いに期待される。

鳥取大学吉野三也先生のグループは、表皮にメラニン色素（自己抗原）が蓄積する遺伝子改変マウスを用いて、非自己抗原に対する免疫応答が活性化されている際にも自己抗原の輸送が常に一定の速度に行われていることを明らかとした。自己抗原の遊走には、皮膚に局在するランゲルハンス細胞が寄与していることも突き止め、メラニン顆粒をこれらの細胞が捕捉し所属リンパ節へと遊走することで徐々に所属リンパ節が黒くなっていた。このように自己抗原が常に輸送されていることが皮膚免疫の恒常性維持に関与しているのではないかと考えられる。

また私自身も、経皮ワクチンの免疫誘導機構解明に関するポスター発表を行いました。著名な先生方から貴重なご意見を頂戴し、非常に有意義な発表を行うことができました。今後は、先生方から頂いたご意見を参考に研究に精進してまいります。最後になりますが、この度、学会参加にあたりご支援いただきましたことを、心より感謝申し上げます。